

令和7年度第1回交野市図書館協議会 議事録

1 日時 令和7年7月4日(金) 13時～14時10分

2 場所 交野市立青年の家2階 会議室

3 出席者

- (1) 木下会長、中嶋副会長、伊藤委員、今堀委員、神原委員、北井委員、木場委員、島田委員、白川委員、高嵯委員、恒松委員、西岡委員、松井委員、(欠席:内山委員)
- (2) 事務局 上井次長、原田館長、吉田課長代理、益田
- (3) 傍聴者 なし

4 次第

- (1) 市長挨拶
- (2) 出席者紹介
- (3) 会長・副会長選出
- (4) 令和6年度事業報告について
- (5) 令和7年度事業計画について
- (6) 第4次交野市子ども読書活動推進計画 進捗状況について
- (7) その他

5 概要

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶

青年の家等に関して、現在、計画的に改修を進めている。昨年度エレベーターを設置、今後、武道施設のエアコン設置、トイレ改修、防災公園の整備、屋上防水や外壁塗装等、施設としての整備にめどがついた段階で、図書館は、しっかり「場所」として定義をすべきだと思っている。北河内他市と比較して、交野市の図書館は、人口・職員数に対し、面積が狭すぎるため、倉治図書館と教育文化会館の一体化等も含め、施設整備が必要と考える。

今年度から図書館は教育委員会から市長部局へ移った。協議会委員に市民参加が可能になるよう条例を改正するなど、利用者の声がきっちり図書館運営に反映されるようにしたい。よりよい図書館を市の責任で整備していく。引き続き皆様からのご理解を賜りたい。

(市長退席)

- (3) 出席者紹介

(4) 役員改選

互選により木下会長、中嶋副会長を選出

(5) 委員出席状況確認

委員14名中11名の出席(※)にて、交野市立図書館条例第4条第6項により会議成立
(※後刻2名遅れて入室)

(6) 令和6年度事業報告について(事務局より資料に基づき説明)

1頁「1 交野市立図書館の歩み」

- ・令和6年7月から12月までの半年間、青年の家エレベーター設置工事のため、青年の家図書室を臨時休室した。この工事に伴う臨時休室中、移動図書館車ブンブン号での臨時窓口を開設した。
- ・老朽化していた移動図書館車の更新を行った。
- ・3月には、市民団体「交野おりひめライオンズクラブ」より寄贈を受け、JRのご協力のもと、JR星田駅へ返却ポストを設置した。

4頁「4 図書館の推移」「(1) 図書館利用状況等の過去5年間の推移」

- ・「実質登録者数」、「個人貸出数(広域含む)」、「個人・一般書貸出冊数(広域含む)」、「個人・児童書貸出冊数(広域含む)」
- 4項目とも、前年度から数値が減少。青年の家図書室、臨時休室の影響によるものと考える。
- ・「予約冊数」と「Web予約冊数」
- 過去10年以上継続して増加。令和6年度、かなり大きく増加しているのは、臨時休室中、Web予約した本を臨時窓口で受け取るといった利用の仕方が増えたものと思われる。

5頁「(2)、継続行事参加者等の推移」

- ・臨時休室によりおはなし会や図書館見学の参加者数が減少してるが、職員出前講座やリサイクルフェアの参加者数は、コロナ禍以降徐々に増加している。

8頁「(7) 自動車文庫ステーション別利用統計」

- ・利用者数、貸出冊数とも、前年度より微増。
- この数字とは別に、青年の家図書室の臨時休室中、移動図書館車にて週4日、臨時窓口を開設し、半年間で8724人、2万8000冊以上の利用があった。

10～15頁「6 年間行事等」「(11) その他事業」

・「①移動図書館車の購入」

令和6年度コミュニティ助成事業助成金(宝くじ助成金)を活用し、車両を更新。
車体後部にリフトを設置、これにより、車椅子やベビーカーのまま利用できるほか、大型本や雑誌を載せたブックトラックの積み下ろしが可能になった。木目調の書棚は、本の大きさに合わせて棚板が動かせる可動式。車体デザインは、市民公募から選んだ5作品を使用して

いるほか、アナウンスの音楽は交野市少年少女合唱団の協力により録音したものを使用しており、市民から好評を得ている。

4月には朝日新聞のコラムに掲載されたほか、先日はテレビ大阪の番組取材を受けた。

・「②FAL（フィールド型アクティブラーニング事業）」

摂南大学現代社会学部との連携事業。令和5年度より引き続き実施した。

・「③移動車移動図書館車『ブンブン号』による『交野いきいきマルシェ・おりひめの駅』への参加」

「ブンブン号」旧車両での最後の参加となったため、「ありがとう5代目ブンブン号」として、パネル展示や記念写真の撮影等を実施、多数の参加があった。

・「⑤他課との連携事業」「あつまれ本好きの森プロジェクト」

旧：指導課（現：学校教育課）とともに、小学校5年生～中学生を対象に、半年間で5回のイベントを開催。「図書館司書体験」「阪大図書館見学ツアー」「ビブリオバトル」を実施。

・「⑤他課との連携事業」「みらい学園メディアセンター運用準備に伴う技術支援」

小中一貫校型のみらい学園の開校に向け、年度を通して支援を実施。

17 頁「8 関係ボランティア団体等の活動と連携」

・「(1) 地域家庭文庫」

6年度、5つの文庫が市内で活動。6年度末をもって50年続いたえんがわ文庫が閉室。

各文庫へは図書館から新刊本を提供、文庫連絡会と共催でストーリーテリング研究会を開催している。

・「(3) 朗読グループあい」

高齢者、障害者サービスで連携。6年度は、録音図書（デージー図書）12タイトル作製。

18 頁「9 第4次交野市子ども読書活動推進計画」

・令和6年3月から試行実施を開始した新規事業「赤ちゃんタイム」について、アンケートの結果、好評を得て今年度より本格実施。

19 頁「11 まちの図書館化事業」

・6年度は継続中の21ヶ所に対し、アンケートをもとに補充・入れ替えを実施。現在計 2500 冊以上の本が活用されている。

19 頁「12 雑誌スポンサー制度」

・5年度から1社増加、2社から7誌の提供を受けた。

(7) 令和7年度事業計画について（事務局より資料に基づき説明）

「1 資料の収集と提供」

・資料の価格が高騰する中、図書館利用者の予約リクエスト及びその他の多岐にわたる要求に応えることができるよう、利用実態に合わせた有用な資料を収集を行うほか、所蔵していない資料については、相互貸借制度の活用により、できる限り提供に努める。

・高齢者、障がい者、日本語を母国語としない人なども、含めたすべての人が読書に親しむこ

とができるよう、大活字本や点字本、LLブック、多言語絵本など、様々な形態の資料整備を進める。

- ・市内に設置した「まちの図書館」資料の補充・入替えやリサイクル・フェアの実施により、除籍した資料の有効利用を図る。

「2 図書館情報ネットワークシステムの充実」

- ・幅広い世代を対象にしたインターネットサービスの利用促進に努め、利用者層の拡大を図る。
- ・次期システムの更新を見据えた運用の見直しや、情報収集に努める。

「3 図書館利用窓口の充実」

- ・図書施設へのアクセスが困難な利用者のために、移動図書館車のステーションの増設に伴う試験運行を実施するほか、各種イベントへの参加等により、令和6年度に更新した新しい移動図書館車のPRに努め、利用促進を図る。

「4 子どもの読書活動推進」

- ・「第4次交野市子ども読書活動推進計画2022年度から2026年度」に基づき、家庭・学校・地域と連携し、子供の読書環境の整備に努める。
- ・本格実施した赤ちゃんタイム事業の充実や子ども向けイベントの開催など、子どもと読書を結びつける機会が豊かになるよう、様々な取り組みを行う。
- ・「絵の本ひろば」や「あつまれ本好きの森プロジェクトの開催」など、市民団体や関連機関との連携を図り、子どもの読書活動の普及と啓発を行う。

「5 市民活動の推進」

- ・子どもや障がい者の読書活動を推進するために、様々な市民活動団体等と連携し、協働事業を実施するなど、地域に根差した図書館の強みを生かした、より一層の市民協働推進を図る。

「6 図書館・図書室の運営」

- ・「交野市立図書館運営方針」に基づき、効率的な図書館運営に努めるとともに、より質の高いサービスの提供をめざす。
- ・摂南大学との連携事業「FAL」を実施、学生と協働で図書館利用促進を図るなど、新規利用者獲得に向けた取り組みを進める。
- ・青年の家図書室拡充に向け、その機能や役割の整理、情報収集など、指針作成の準備を進める。

質疑応答

会長)ただいまの報告と事業計画について、質問や意見があれば発言を。

では口火切り役でということで、摂南大学とのFALについて。2年続けて行い、今年度もということだが、去年のFALで学生が作成した動画は、その後どのように活用しているのか。事務局)「倉治図書館ぐるっと一周」「図書館本の貸出手続き」「図書館イベント編」の3本を作成した。現在、図書館ホームページで閲覧可能。

会長) 学生が作った成果物がホームページで活用されているということで、素晴らしいと思う。

皆さんいかがか。

委員) 子ども読書をはじめ、幅広い事業に取り組まれている。市民ボランティアとの繋がりが非常に深いような印象を今回持った。直営でこそその事業だと思う。指定管理者制度の図書館だと市民との連携が微妙なところ、難しいところがある。

また、自分は堺市で館長をしていたが、大学との連携というのは、教育委員会内ということでスムーズに連携できる小中学校と違い、窓口一つとっても難しい部分もあるのに、非常に熱心にされているところを今回見せていただいた。また私も勉強させてもらおうと思う。

委員) 事業計画「3 図書館利用窓口の充実」で、移動図書館車のステーション増設に伴う試行巡回実施ということだが、現在、どの辺りに新しいステーションを考えているのか。

事務局) 現在、開発中の星田北地域に今、3ヶ所、試行巡回している。いずれも利用が多く、悩ましいところだが、立地や今後の利用見込みも含めて検討し、9月からの本格運行に向けて、1ヶ所ないしは2ヶ所、決定したい。

会長) 移動図書館車については、廃車をきっかけに次の更新をしない自治体や図書館もあると聞く。今回ブンブン号を更新するということで、市民にPRして、どんどん活用してもらえればと思う。

委員) 16頁の団体貸出について、市内の高校がずっとゼロだが、今日、校長も来られているので、意見を伺いたい。貸し出しできないのか。

事務局) 貸出は可能。以前、学校図書館専任の司書が活発に活動していた頃は利用が多かった。今も学生が直接借りに来ることはあるが、なかなか学校を通しての貸出ができていない状況。ぜひ活用していただけたらと思う。

委員) 校内的には、購入希望図書を集めて、PTAと連携するなどして図書購入はしている。

また、様々な課題、学習等で、交野の図書館には、それぞれ生徒各自でお世話になっていると思う。ただ、近年、司書が毎年変わってるようなところもあり、団体としての利用はしていない。また参考にさせてもらい、図書館利用の活性化につなげられたらと思う。

会長) 専任の学校司書は。

委員) 現在 3 名いる。

会長) ぜひ、つないでもらいたい。

委員) 突然振って申し訳なかった。私は、小学校でも勤務していたが、公共図書館はすごく協力してくれるので、ぜひ、活用いただけたらと思い、提案した。

委員) 学校との連携については、堺市のときも学校側から「物流が負担」という意見があった。先生が、休日や放課後に本を取りに来る状況が長い間続いていたが、議会等での指摘もあり、物流を委託できるようになり、学校からFAXやインターネットで予約した本を図書館そろえて提供という形になってからは、利用が増加した。予算的には大変だと思うが、その辺りについて、一度検討してはどうかと思う。

副会長) 図書館の活動が、どんどん充実していることがよくわかった。一方で、いろいろしている

にもかかわらず、職員の数がひとつも変わらないっていうのは、いかがなものか。

文庫は、「子どもに出会ってほしいと思う本を届ける」活動をしている。学校でも公共でも、単なるリクエスト本だけではなく、「今この時期に出会ってほしい本」を手渡したり、アドバイスできる専任の司書、児童図書館員がいることで、購入する本も子どもへの差し出し方も随分変わってくると思う。

「人」のところをまず考えて欲しい。声を大にしてお願いする。

会長) 少ない人数で、とても多くの事業をしていることにお礼申し上げます。

委員) 12頁、図書テーマ展示について、展示された後は、報告書か冊子などにはされているのか。事務局) リストは、毎回作成している。現時点で配布できるような形にはしてないが、いずれはホームページ等で閲覧できるようにしたい。

委員) それぞれ丁寧に面白いテーマで特集をしているのに、その月だけではもったいない。図書館司書の能力も向上すると思うので、報告書や図録にして、設置してもらえたら、来館者がまた読める。

会長) 私も前職のときにテーマ展示コーナーを実施しており、その時のリストを、ウェブサイトに掲げて、蓄積していつか。アーカイブ化していくことでまた活用になると思うのでぜひ検討してもらいたい。

委員) 子どもが少ない。土曜日の午後に文庫を開室しているが、習い事やほとんどの家庭が共働きで、みんなが忙し過ぎる。それでも熱心に通ってくれる方に、いかに良い本を手渡させるかということで、日々勉強していきたい。

子育てサロンでのよみきかせや貸出もしている。それも数が減少しているが、そこに来らるお母さんは熱心なため、そこからどうにか、小学校まで継続的に借りていただけるようにしたいと思っている。

小学校にも継続的におはなし会に行っており、協力いただいている学校に感謝している。

会長) 学校現場の話も出ていたが、小学校の現状はどうか。

委員) この報告書を毎回見せてもらって、本当に大変だなと、頭が下がる思いでいる。

我が校は、倉治図書館が近くて、子どもたちから「今日、図書館に行くねん」という話をよく聞くので、お邪魔して迷惑かけてないかなと思いながら聞いていた。

たくさんの事業がある中でも、数字の中に小学生がきっとたくさんお世話になっているのだらうと、感謝申し上げます。学校でも、学級文庫という形で巡回図書を利用させてもらって、本当にありがたく思っている。

心配なのは、市長部局に移って、充実するのはいいのだが、変わってしまうことがないように願っている。

会長) 教育委員会部局ではなくなったが、やはり学校との連携は欠かせないことなので、継続されること願っている。

(8)「第4次交野市子ども読書活動推進計画」の進捗状況について

(事務局より資料に基づき説明)

本推進計画の進行管理については、「協議会及び教育委員会において行う」と計画に記載しているが、本年度からは当協議会のみとなる。

これまでと同様に、報告年度の事業内容で、自己評価に差があるものや、特徴のあった項目を中心に、説明し、その内容に対して、ご意見いただくことは変わらないのでよろしくお願いいたします。

1 頁「1.家庭における子供の読書活動推進」

②乳幼児のいる家庭向け絵本紹介

青年の家図書室がエレベーター工事のため、半年ほど休室し、イベントができない状況であったため、開催回数が減った。評価は「B」。

④認定こども園、幼稚園や学校における家庭への啓発

毎年、市内子ども園等へ直接アンケート調査を行っているが、市内全園26園のうち25園の協力があり、前年度より積極的に回答いただいた。各園で取り組みを工夫し、子どもと読書に対して関心が高い傾向が伺える。評価は昨年度と同じとした。

⑥子どもが集う場所での児童書の充実

新設や新規での取り組みはなかったため、評価は「A」から「B」とした。

⑧図書館利用の整備

本計画策定時のアンケートにおいて、「図書館に行く時間がない」「園への配送や、市内に返却ポストを増やすなどして欲しい」といった意見があった。まちづくりが進む星田北地域への図書館サービスとして、JR西日本の協力のもと、星田駅へ返却ポストを設置できたことは大きい。

また、宝くじ助成金を利用して、念願であった移動図書館車をおよそ20年ぶりに更新することができた。市民の読書振興及び図書館利用の促進につなげるため、新設ステーションを検討する。評価は「A」とした。

2 頁「2.学校等における子どもの読書活動の推進」

③私立認定こども園、幼稚園の絵本蔵書の充実

夏季巡回については日程調整がうまくいかず、昨年度より2園減少、貸出冊数も減少。また、団体貸出についても大幅に減少したため、評価は「A」から「B」とした。

⑤幼稚園教諭や保育士に読み聞かせ講習会

ニーズがあり、希望する園も増えているが、実現に至っていないため、評価を「D」から「E」とした。

⑦認定子ども園や幼稚園等向けに、乳幼児期の絵本の紹介

令和6年度より「広報かたの」にて、毎月2冊の新刊紹介を行っている。表紙画像及び紹介文をつけることで予約が入り、有効な読書情報となっていることから、評価を「B」から「A」とした。

3 頁「(2)学校の役割と取り組み」

①全校一斉読書の実施

昨年度と比較して、13校から11校と減少したため評価が「B」から「C」とした。

4頁「3.地域における子どもの読書活動推進」

②子育てサロンや子育てサークル等での読書活動の推進

職員出前講座が2講座増加。ファミリーサポートセンター会員へ向けての講座として、子どもの育ちに関わる大人への講義ができた。評価は「B」。

④子どもの読書に関連した各種講座開催、「よみきかせサポーター制度」からの移行

「絵本学講座」は、毎年講師に大阪国際児童文学振興大財団の土居安子氏を招いて開催している。学校司書の学びあいサポーター、読み聞かせボランティアのほか、一般市民の参加もあり、アンケートから満足度の高い内容であったことがわかった。

「本の装備と修理」は、図書館スタッフを講師にワークショップ形式で開催し、わかりやすいと好評であった。

「摂南大学現代社会学部との連携事業」は2年目だが、学生が変わるため、視点も様々であった。学生が企画したイベントは、読書振興ならびに来館誘致に効果的であった。また、図書館の利用動画も完成し、現在、市の公式 YouTube や図書館のホームページで見ることができる。

新規事業ではないため、評価を「A」から「B」とした。

5頁「4.市立図書館における子供の読書活動の推進」

①図書館システムの機能を生かした児童向けサービスの向上

令和5年度は全く取りかかれなかったが、6年度は、ブックリストの整理作成とホームページへのアップに向けた準備ができた。評価は「C」。

以上、全体としましては、「B」評価と判断したことが多く結果となったが、各部署や機関、読み聞かせグループ等との連携により、子どもの読書活動推進が着実に実を結んできたという状況である。機構改革により、教育委員会から離れることになったが、関係各所との連携、情報共有、読書支援を引き続き行っていく。

質疑応答

会長)可能な範囲でいいが、「A」評価のものは、維持していくことをめざすとして、「B」評価の中で、今後「A」になるとしたらどれか。特にここに注力するという項目があれば。

事務局)1頁「1.家庭における子どもの読書活動の推進」の「⑦赤ちゃんタイム」は、今年度から本格実施した。今後、この時間帯に合わせたイベントの開催等、関係各所と連携しながら充実に向けて取り組んでいきたいと考えている。

会長)試行中が本格実施になったということで、これが来年度の報告では「A」になっている可能性が高いとこのこと。期待したい。

委員)「赤ちゃんタイム」について、内容を具体的に教えてもらいたい。

事務局)主に乳幼児のいる世帯に、気兼ねなく図書館を利用していただくために、この時間帯は泣

き声の制止などを行わず、皆さんで見守っていきましょうという時間帯を設けている。

「子ども読書活動推進計画」を策定する際のアンケートで、「赤ちゃんがいと騒ぐので図書館に連れて行きにくい」という声がたくさんあったことを踏まえて、この時間帯を設定した。水木金土曜日の10時～12時が、「赤ちゃんタイム」。もちろんそれ以外の時間帯にも来てもらいたい、「特にこの時間帯は、気にせず来館を」ということで実施している。

また、「絵本選びに迷ったら、スタッフに声掛けを」ということも、ポスター等で周知している。

会長) 1週間のうち水木金の3日間か。

事務局) 4日間。

会長) 他市で、週1回等はある。回数が少なく、どうかと思っていたが、こちらは、週4日。ニーズが高いということか。

委員) 赤ちゃんの声は、図書館になじまないと思う方もいると思う。そのあたり、周知のうえでの実施だと思うが、反応は。

事務局) まず試行実施の段階で、アンケートを実施。その後、本格実施に向けて再度アンケートを実施したが、いずれも対象となる乳幼児のいない家庭の利用者からも、概ね「賛成できる」「いい取り組みなのでぜひ」ということ声が多かった。

会長) 親子で気兼ねなく図書館に行く機会は、子育ての孤立からの解消にも繋がるのではないかなと思う。

ほかに、どの部分でもよいが何かないか。

この子ども読書活動推進計画に基づく事業も多く、また頭が下がる思いだが、来年在最終年ということで、ますます充実してもらえることを願っている。

本日、予定しておりました案件は終了したが、他に何かあるか。事務局からは。

事務局) 評価も含めて、特に、ご意見、異議等はないか。

なければ、承認ということで、事業報告の方は、この後、空欄(未確定)部分が確定後、「令和6年度年報」としてまとめる。本日、配布した冊子は、昨年度この協議会で意見をいただいた後、教育委員会にかけた上で、年報としてまとめたもの。今年度からは教育委員会に属していないため、これをもって、年報として作成に取り掛かりたい。

会長) この内容で確定ということで、承認いただけるか。

(異議なし)

会長) では、以上をもって、令和7年度第1回交野市図書館協議会を終了する。